

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

## 為替週間展望 = ドル円は緩やかに上値を追う展開か

[2月8日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		2月1日～2月5日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	104.62	105.64 (5)	104.61 (1)	105.54	+0.86
ユーロ・ドル	1.2134	1.2145 (1)	1.1952 (5)	1.1963	-0.0173

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
日経平均株価	28,779.19	+1115.80	日本10年債利回り	0.051	-0.003
ダウ平均株価	31,055.86	+1073.24	米10年債利回り	1.139	+0.074

=====

<来週の主要経済統計等>

- 8日 日本12月経常収支  
スイス1月雇用統計  
独12月鉱工業生産指数
- 9日 独12月貿易収支、独12月経常収支
- 10日 中国1月消費者物価指数、中国1月生産者物価指数  
英12月鉱工業生産指数、英12月製造業生産指数、英12月貿易収支  
独1月消費者物価指数  
米1月消費者物価指数  
米1月財政収支
- 11日 米新規失業保険申請件数
- 12日 英第4四半期国内総生産 (GDP) 速報値  
スイス1月消費者物価指数  
ユーロ圏12月鉱工業生産指数  
カナダ12月卸売売上高  
米2月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】米国株は高値圏で荒れた動きを見せることが見込まれ、その場合にリスク回避のドル買いの動きとなって、ドル円を下支えしやすとみられる。ドル円は1月27日に104円台を回復した後は堅調な動きを見せており、104円台を中心に底堅い推移となりそうとした。

【ドル円は堅調推移で105円台に乗せる】

米国株式市場では、個人投資家による投機的な動きが市場を混乱させるとの警戒感から1月29日にNYダウは620ドル安となり、3万ドルの大台を割り込んだ。リスク回避のドル買いの動きとなって、ドル円は104.94円と105円目前まで上昇した。1日以降、米国株は上昇に転じたものの、ドル売りの動きとならずにドル円は105円台後半まで上昇している。

米10年物国債利回りは1月26日に1.05%前後まで低下したものの、2月4日には1.14%前後まで戻している。米長期金利の上昇もあって、ドル円は堅調な動きを見せており、105円台で値固めする動きにつながっている。このところはドル円の動きと米10年債利回りの相関関係が復活しつつあり、これらが同方向に動く傾向が高まっている。

2月8日の週は1日の週と比べて、注目度の高い経済指標の発表は少ない。10日(日本時間の11日午前4時)には米連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長の

講演が予定されている。注目されるのは米国での追加経済対策の行方となる。バイデン政権は共和党との歩み寄りの姿勢は見せているものの、追加経済対策を共和党の同意なしで通過させる可能性がある」と報じられている。

一方で、新規失業保険申請件数など一部の経済指標は改善を見せていることで、これほど大規模な対策が本当に必要なのか疑問視する声も出てきている。追加経済対策が実現へ向けて進展すると米株高要因となるが、財政支出の拡大が米長期金利の上昇につながり、これまでのように米株高がリスク選好のドル売りにはつながりにくくなる可能性が高い。

米国での追加経済対策による景気回復への期待感の高まりや財政支出の拡大が米長期金利の上昇につながり、ドルのサポート要因となりそうだ。米国株は高値圏で荒れた動きを見せる可能性があるものの、ドル円は底堅い推移を見せて、緩やかに上値を追う展開となりそうだ。目先は106円の節目を試す展開か。ドル円の目先の予想レンジは、104.50～106.75円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、8日に日本12月経常収支、10日に米1月消費者物価指数、米1月財政収支、米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長の講演、11日に米新規失業保険申請件数、12日に米2月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

#### 【ユーロドルは一段と下値を探る展開か】

米長期金利の上昇でドルが買われており、ユーロドルは軟調な推移を見せている。イタリアでの政局混迷も不安視されている。昨年第4四半期のユーロ圏域内総生産（GDP）は前期比-0.7%と前回の+12.4%（改定値）から悪化したものの、市場予想の-0.9%を上回った。欧州では新型コロナウイルスの感染再拡大の影響が出てきている。

ただ、1月のユーロ圏の製造業やサービス業の購買担当者景気指数（PMI）は予想から上振れするなど、堅調な結果を見せるものもある。もともと今後、新型コロナウイルスの影響が一段と深刻化してくる可能性もあり、経済指標や景気動向が注目される。

ドルが堅調な動きに転じており、ユーロドルは引き続き上値の重い展開が見込まれる。イタリアの政局不安が解消して、ユーロ圏やドイツなどの経済指標が一段と改善に向かうかが注目される。ユーロドルは上昇トレンドの途上とは異なり、押したところで買いに支えられやすい地合いとはなっておらず、軟調は流れが継続している。こうした流れが継続して、一段と下値を探る展開が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1750～1.2150ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、8日にスイス1月雇用統計、独12月鉱工業生産指数、9日に独12月貿易収支、独12月経常収支、10日に中国1月消費者物価指数、中国1月生産者物価指数、英12月鉱工業生産指数、英12月製造業生産指数、英12月貿易収支、独1月消費者物価指数、12日に英第4四半期国内総生産（GDP）速報値、スイス1月消費者物価指数、ユーロ圏12月鉱工業生産指数、カナダ12月卸売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

#### <免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。